

松本侑子

わ く わ く し て 夢 中 だ っ た

初めてコンピューターを使ったのは、1982年だった。私は文系だったが、たまたまプログラミングが大学の必須科目だったのだ。

当時は、パソコン（パーソナルなコンピューター）というものはまだ存在せず、企業や政府が使う高価で巨大なオフコンだけだった。もっとも、ワープロ専用機は販売が始まっていたが、たしか700万円くらいして、普通の人が使う商品ではなかった。

当然、ソフトウェアも極端に少なく、経理ソフトなどは、その方面の趣味のある人が、パソコン雑誌を見てつくっていた。

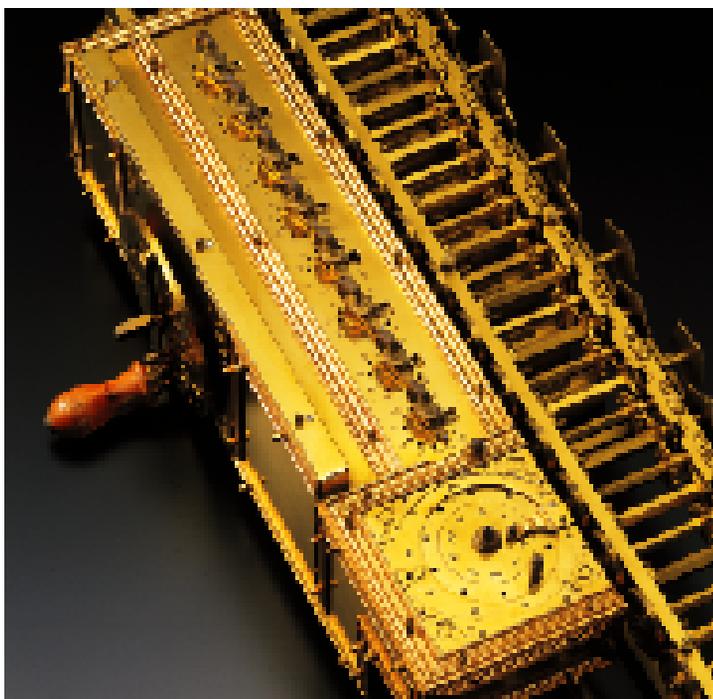
そんな時代だったからだろうか、私も自然とプログラミングに関心をもち、初めて見るキーボードの文字配列に目を白黒させながら、加減乗除の電卓プログラム、偏差値を出すプログラム、ファイルの並べ替え、といった簡単なものをつくった。

以後は、ソフトが次々と市販されるようになったので、実際に自作ソフトを使う機会はなかったが、プログラミングの経験は、思ったよりも役に立った。

作家になったばかりの'88年にMS-DOSマシンを買ったとき……。そのころはワープロソフトは一太郎が主流だったが、その漢字変換を、パソコン通信でも使う場合、ユーザーは、通信ソフトのプログラムの一部を自分で書き換えなければならなかった。そんな時も、さほど違和感なくできた。

またあのころ、HDD（ハードディスクドライブ）は本体に内蔵されていなかったの
で、お店で8万円くらいするHDDを買ってきて、パソコンの箱をネジまわして開け
て、家で取りつけるものだった。メモリーも同じように書斎で増設した。

20 年 間





表紙 藤幡正樹「ひょうたん」
 平版[オフセット4色刷り]
 456x 399mm 1990年

まつもと・ゆうこ…… 1963年鳥根県生まれ。筑波大学卒業、政治学専攻。テレビ朝日系列『ニュースステーション』出演を経て『巨食症の明けぬ夜明け』（集英社文庫）ですばる文学賞受賞。著書『光と折りのメビウス』（ちくま文庫）、『イギリス物語紀行』（幻冬舎文庫）、『赤毛のアン』（新完訳、集英社文庫）、『赤毛のアンに隠されたシェイクスピア』（集英社）ほか。

そんな経験を経て、'97年には、秋葉原で部品をそろえ、5時間かけて自作マシンをつくった。一度、壊れたときは修理もした。

その結果、パソコンの箱のなかは得体の知れないブラックボックスではなく、実に理路整然とした美しい仕組みからなりたっていることを知り、感動した。

パソコンの初期から使っていたおかげで、ソフトとハードについて、初歩的な知識ではあるが、その一端を理解する幸運に恵まれた。またこの20年間、コンピュータがいかに高性能化、小型化、低価格化といった驚異的な発展をとげてきたか、身をもって感じている。ウィンドウズ、光ファイバーと、新しい技術が実用化されるたびに、わくわくして買い替え、執筆に役立ててきたのだ。

だが、すべての家電製品の背後に、同じ技術開発の歴史が流れているのだ。それをおぼえる、技術者の人々の創意工夫、たゆみない努力と熱意に、あらためて深い敬意をおぼえる。

C o n t e n t s

2 技術に会う 1

わくわくして夢中だった20年間 松本侑子

4 HITACHI FILE talk+

【talk】タンパク質の機能解析をメインターゲットに
 次世代の研究をデザインするセールスサイエンティスト
 原田義則

[+] 日立のライフサイエンス関連サービス

【talk】インフラというダイナミズムを日立の総合力を
 結集してソリューションする
 斉藤裕

[+] 松江泰治「CC」

【talk】情報セキュリティ 対策はサイバーとフィジカルの融合へ
 田代勤

[+] 情報セキュリティ 概念の変化

10 特集 2005年万博の旅

11 愛・地球博 鷺の目鷹の目ツアー 環境・IT・メディア

19 [対談]ターニングポイントとしての万博
 村上陽一郎×五十嵐太郎

24 万博と日立

26 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 1

蒸気タービン 電化時代の社会の心臓

30 technobscure 1 梶井照陰 NAM IJ

32 HITACHI Information

34 日立総研 CLICK ON! research report 1

VRM 自動車社会の新たなビジネスモデル